

《令和8年度 研究会活動紹介》

研究会名	代表者氏名
近世唱導文芸研究会	北林 茉莉代
研究会名 略称:近世唱導	所 属:大正大学非常勤講師
活動紹介	
【活動内容】 近世唱導文芸研究会では、大正大学図書館に所蔵されている近世の唱導文献を主たる対象として、本文の翻刻、読解、引用文献資料の検討等を行っている。令和五年度までは内典・外典等からの抜き書きを分類配列した『類雑集』を対象とし、全十巻の翻刻および出典研究等を行ってきた。 令和六年度以降は、仏教説話集『宝物集』を研究対象としている。『宝物集』は中世の成立と考えられるが、近世においても広く流布しており、その展開や受容のあり方について検討が必要である。また、一卷本系、三巻本系、七巻本系と、多岐にわたる諸本系統が確認されていることから、本文研究が重要となる。本研究会では『宝物集』研究の基盤を整えるため、第二種七巻本系(吉川泰雄氏蔵本)本文の注釈作業を進めるとともに、特徴的な伝本の実地調査を行っている。	
【活動実績】 ※出版/論文/受賞・研究助成の経歴など 『除睡鈔——翻刻と研究——』岩田書院(大正大学総合仏教研究所叢書、第24巻、2008年) 「『類雑集』翻刻〔一〕～〔十〕」『大正大学総合仏教研究所年報』33号～42号(2011年～2020年) 「『類雑集』の出典(その1)～(その2)」『大正大学総合仏教研究所年報』43～44号(2021～2022年) 「『類雑集』の動物表現(その1)～(その2)」『大正大学総合仏教研究所年報』45～46号(2023～2024年) など	
【令和8年度活動計画】 令和八年度の活動計画として、次の二点が挙げられる。第一に、文献調査に基づいた「注釈の検討」である。メンバーは担当箇所の本文に語釈・現代語訳・補注・考察・参考文献を付した注釈を作成する。活動日には、各自が作成した注釈の妥当性を議論する。研究会で検討を重ねた内容は、『総合仏教研究所年報』第四十九号に発表予定である。第二に、実地調査に基づいた「伝本の実態把握」である。直近では、6月に京都寺院が所蔵する伝本を調査する予定である。	